

立命館大学国際平和ミュージアム第128回ミニ企画展示 パネル・写真展

わたしを ここから だして

"Get me out from the Immigration Prison"
Photo exhibition

—— オリンピックの「治安対策」の名の下に
入管収容所で苦しむ外国人の現在 ——
いま

「平和の祭典」と「おもてなし」の
陰で何が起きているのか？

これは、日本で実際に起きている事件です。

写真とパネル展示

新聞報道で伝える入管問題
収容される難民
クルド難民とは
難民と共に生きる

 立命館大学
国際平和ミュージアム
Kyoto Museum for World Peace,
Ritsumeikan University

2階 常設展示室内

9:30～16:30 ※入館は16:00まで

日曜・1月14日(火)休館

見学資料費

大人 400 円 (350 円)、中高生 300 円 (250 円)、
小学生 200 円 (150 円) ※ () 内は 20 名以上
の団体料金 ※ 先に地階受付で見学資料費をお支払
いください。*立命館で学ぶ人・働く人は無料です。

2020

1/13 [月・祝] - 2/8 [土]

主催 クルド人難民 M さんを支援する会 共催 立命館大学国際平和ミュージアム

わたしを ここから だして

「オリンピックの「治安対策」の名の下に
入管収容所で苦しむ外国人の現在」

"Get me out from the Immigration Prison" Photo exhibition

2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた準備が着々と進む中、「治安対策」の名の下に、難民申請者など帰国できない事情を抱えた人たちが、次々と出入国在留管理庁（入管）の収容所に拘束されています。入管による長期収容と度重なる帰国の強要によって収容された人々は心身を病み、必要な医療も受けられず、自殺や病死、餓死さえも発生しています。追い詰められた収容者たちは収容所からの解放を求め、ハンガーストライキなど、命を賭した行動を始めました。

トルコから日本に逃れてきたクルド難民のケースを中心に、今、入管の収容所で何が起きているのか、収容者の証言や新聞報道、写真を交えながら伝えます。

また、トルコにおけるクルド人の迫害についての写真や映像も展示します。クルド人がどのような境遇から逃れて来たのかを知ってください。

2020

1/13 [月・祝] - 2/8 [土]

会場・問い合わせ先

立命館大学国際平和ミュージアム

〒603-8577 京都府京都市北区等持院北町56-1
TEL 075-465-8151 FAX 075-465-7899
<https://www.ritsumeikan-wp-museum.jp/>



展示作品より：トルコ治安部隊によって破壊された家屋の前を歩くクルド人住民。
トルコ東部・ディアルバクル県スル市にて
クルド人写真家レフィク・テキン（NARPHOTOS通信）



市バス12・15・50・51・52・55・59・M1、JRバスにて「立命館大学前」下車、徒歩5分
市バス204・205にて「わら天神前」下車 徒歩10分
※駐車場はありませんのでお車で来館はご遠慮ください

インフォメーション

トーク&トーク「入管に収容されている難民を支援して」

参加費 一般1,000円 学生500円

会場 大阪聖パウロ教会 ※展覧会とは別の会場です

アクセス 阪急「梅田」駅 徒歩5分・JR「大阪」駅 徒歩7分
〒530-0013 大阪府大阪市北区茶屋町2-30

主催 RAFIQ（在日難民との共生ネットワーク）
MAIL rafiqtomodati@yahoo.co.jp
HP <http://rafiq.jp/>
TEL 06-6335-4440

2/9 [日] 14:00～

【パネラー】

日本とトルコ、クルド難民のいま

周 香織（クルド人難民Mさんを支援する会事務局）

難民の収容と大阪における難民支援活動について

田中 恵子（RAFIQ共同代表）

弘川 欣絵（弁護士・大阪難民弁護団）